

高梁川水害タイムライン検討会

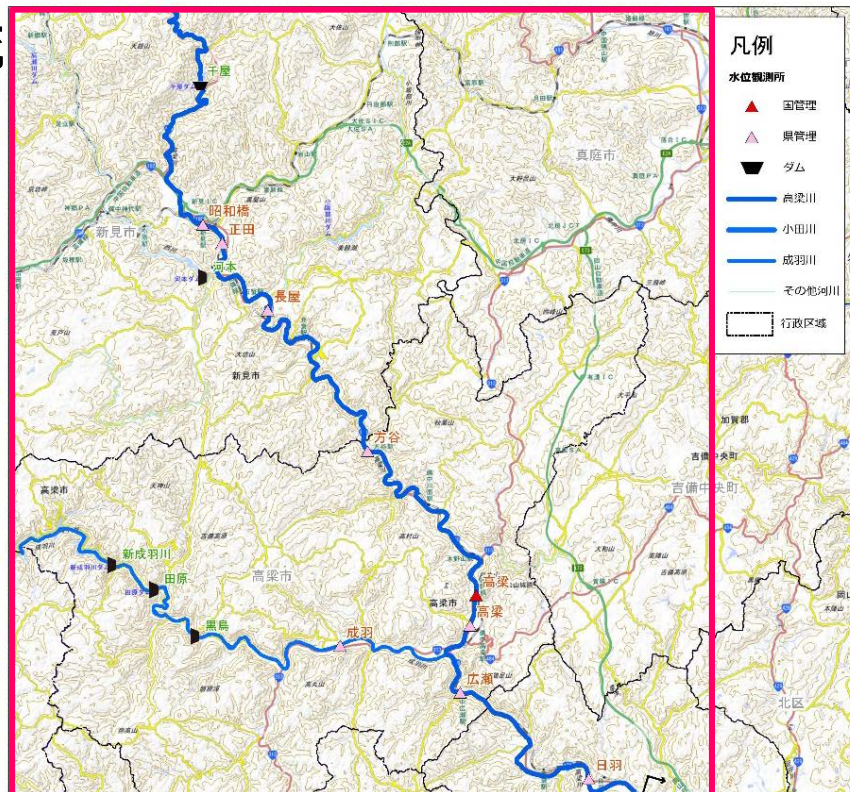
5.グループワーク 〈高梁川の水害リスクについて〉

(1) 高梁川の水害リスク [5分]

水害リスクについて 浸水想定区域図

高梁川本川上流 (県管理区間)

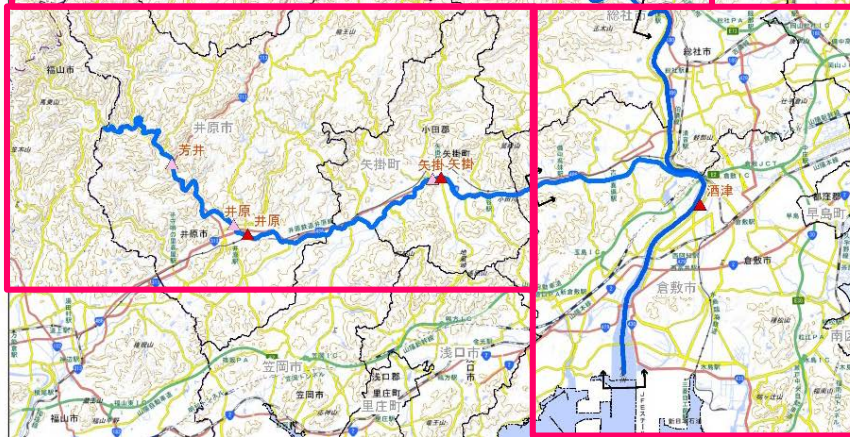
➤ 3ページ



浸水想定区域図		市町村
高梁川本川上流 (県管理区間)		新見市
		高梁市
高梁川本川下流 (直轄区間)		総社市
		浅口市
		早島町
小田川		倉敷市
		井原市
		矢掛町

小田川 (県管理区間)

➤ 5ページ



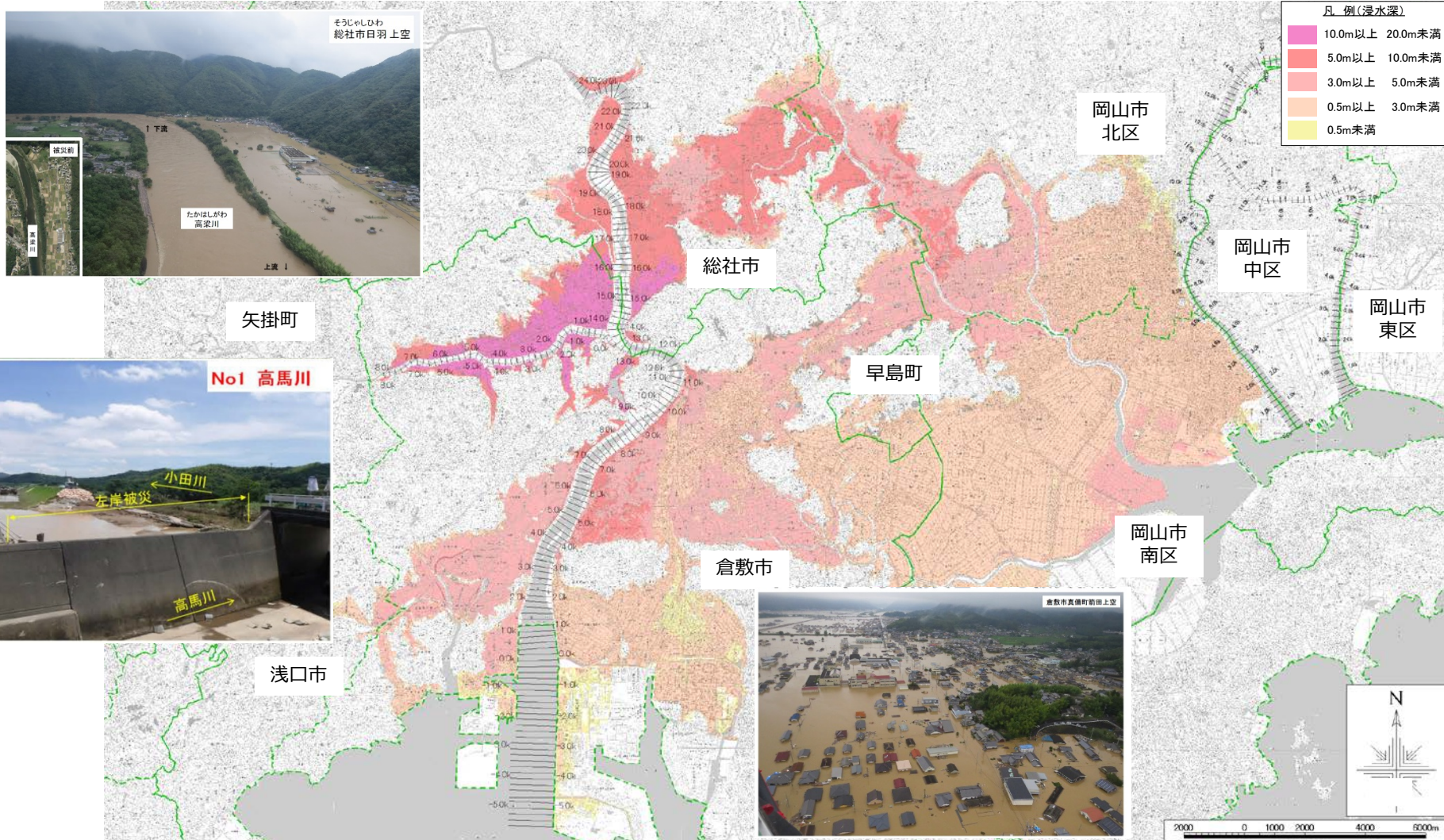
高梁川本川下流 (直轄区間)

➤ 4ページ

水害リスクについて

高梁川本川下流（直轄区間）

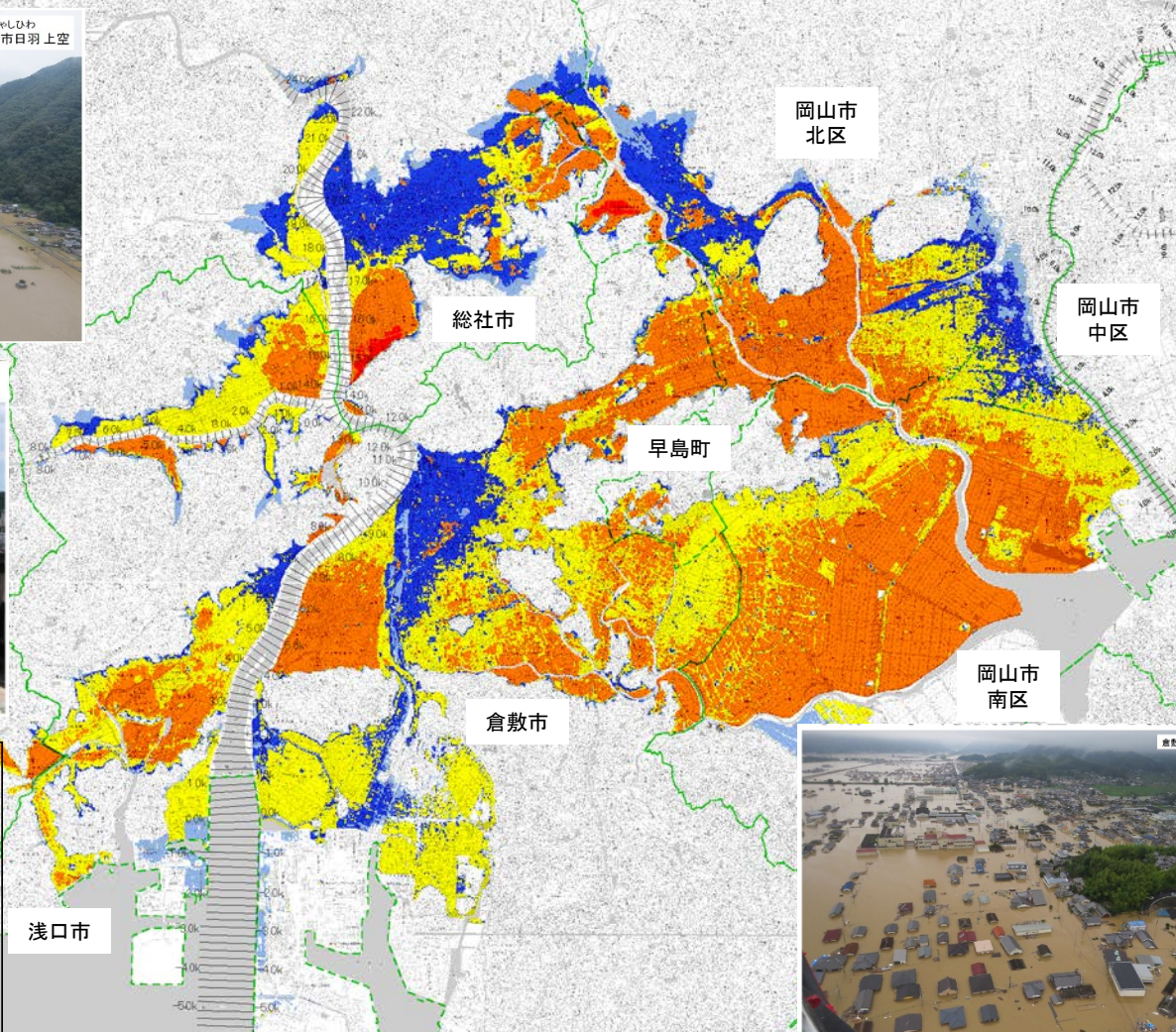
- 埋め立てによって形成されたゼロメートル地帯を含む低平地は、浸水範囲が広域となる恐れがあり、最大浸水深は、小田川合流点付近では10m以上、倉敷市・総社市市街地で3m以上となる地区がある。



高梁川本川下流（直轄区間）の浸水想定区域図（想定最大規模）と平成30年7月豪雨時の被害

水害リスクについて 高梁川本川下流（直轄区間）

- 浸水継続時間は、地盤高が低く排水しにくいエリアでは1日以上となり、特に岡山平野の低平地部では3日以上となるエリアが広がっている。

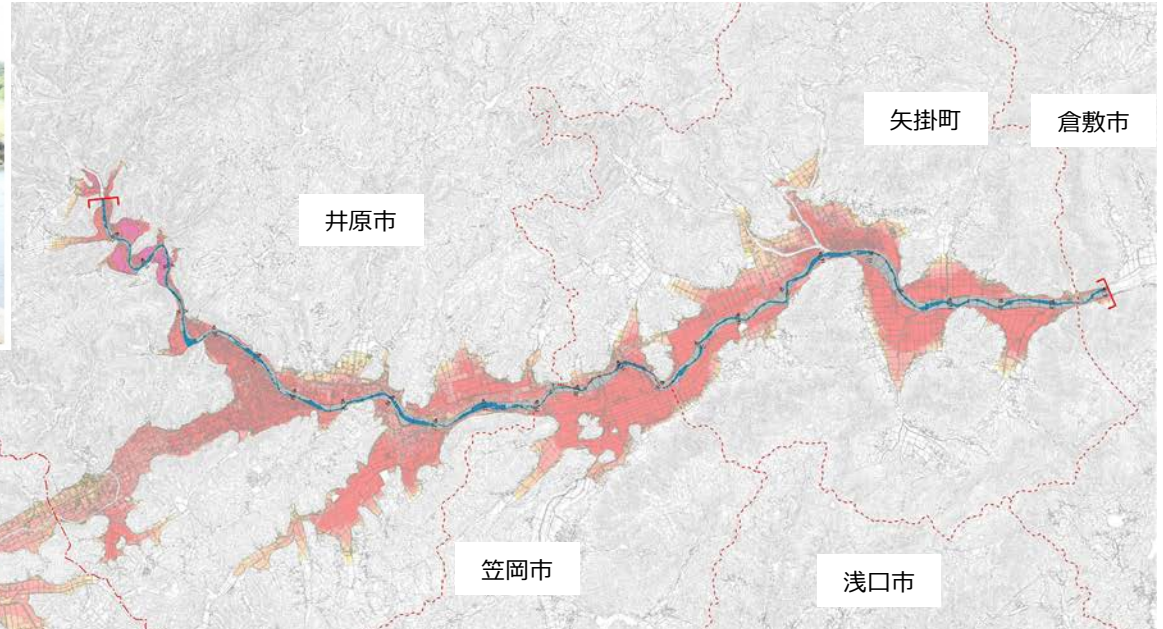


	～ 12時間
	12時間 ～ 24時間(1日)
	24時間(1日) ～ 72時間(3日)
	72時間(3日) ～ 168時間(1週間)
	168時間(1週間) ～ 336時間(2週間)

高梁川本川下流（直轄区間）の浸水想定区域図（浸水継続時間）と平成30年7月豪雨時の被害

水害リスクについて 小田川（県管理区間）

- 小田川上流（県管理区間）は山間部を流下しており、川沿いの狭い氾濫原は山際まで浸水する恐れがあり、浸水区域の大半が最大浸水深が5m以上となる。



凡 例(浸水深)	
10.0m以上	20.0m未満
5.0m以上	10.0m未満
3.0m以上	5.0m未満
0.5m以上	3.0m未満
0.5m未満	



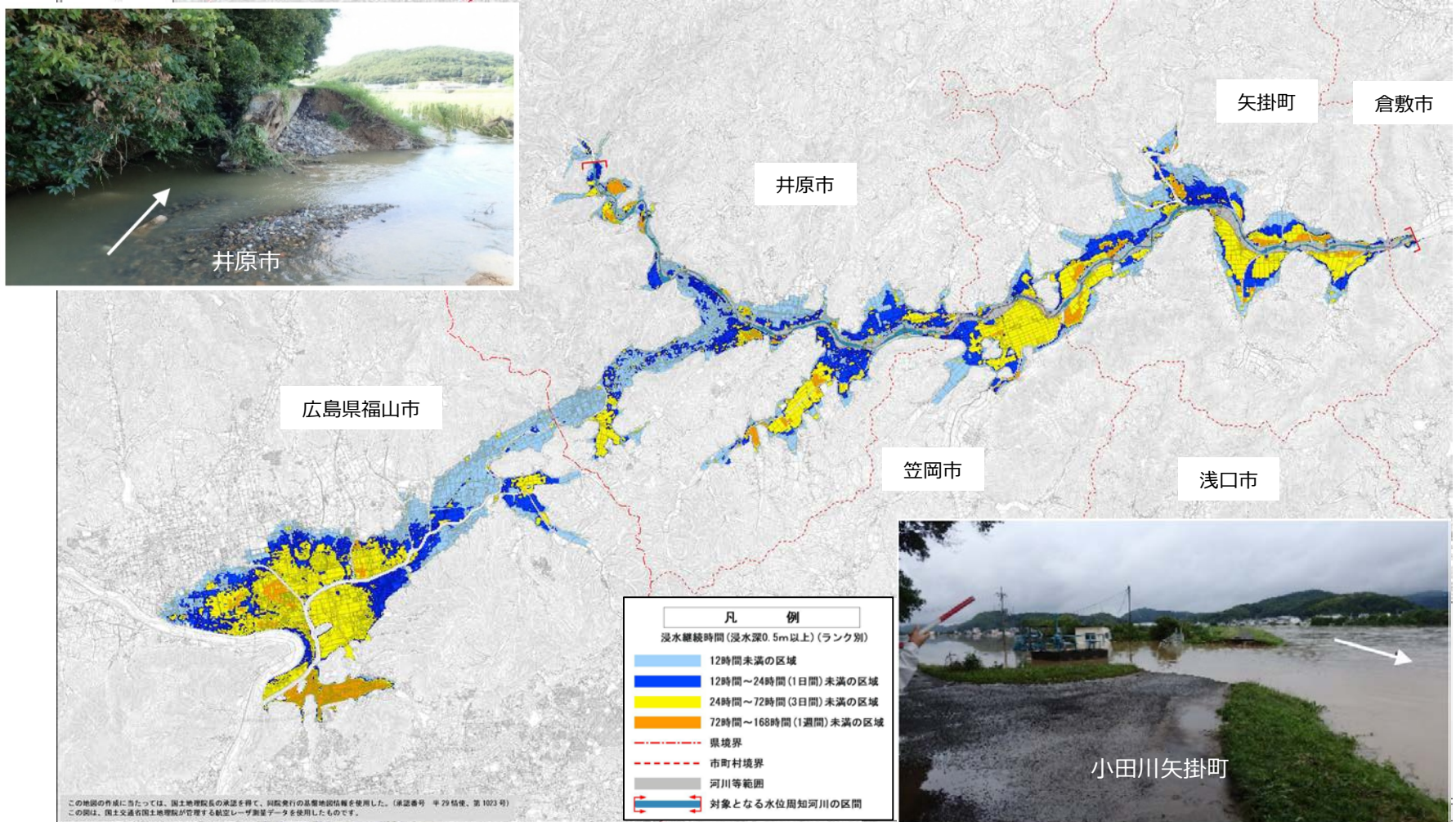
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。（承認番号 平 29 情使、第 1023 号）
この図は、国土交通省国土地理院が管理する航空レーザ測量データを使用したものです。

出典：「洪水浸水想定区域図」（岡山県 河川課）「洪水浸水想定区域図（平成29年度指定・公表） 高梁川水系 小田川」

小田川（県管理区間）の浸水想定区域図（想定最大規模）と平成30年7月豪雨時の被害

水害リスクについて 小田川（県管理区間）

- 浸水継続時間は、上流側の井原市域は一部を除き1日未満となっているが、矢掛町区間は1日以上となっているエリアが広がっている。



出典：「洪水浸水想定区域図」(岡山県 河川課)「洪水浸水想定区域図(平成29年度指定・公表) 高梁川水系 小田川」

小田川（県管理区間）の浸水想定区域図（浸水継続時間）と平成30年7月豪雨時の被害

高梁川水害タイムライン作成のポイント

- **高梁川水系の水害リスクと平成30年7月豪雨の経験**を踏まえて、**逃げ遅れゼロ**及び**社会経済被害の最小化**に向けて以下の観点に着目したタイムラインを作成する。

➤ 広範囲に渡る浸水

→**的確な避難行動に向けた多様な防災活動を含む多機関連携**

- **行政**：河川施設の管理、行政機能の確保、広域避難を視野に自治体間の調整
- **鉄道、バス運行業者**：運行調整状況の共有
- **電力事業者**：避難所への電力供給や停電の調整 など

➤ 交通途絶・ライフラインの停止

→**早期の復旧活動に向けた浸水防止を行うための多機関連携**

- **鉄道、バス運行業者**：運行停止に向けた準備・対応、利用者の避難誘導
- **道路管理者**：道路の通行規制に向けた準備・対応、迂回路の検討
- **ライフライン事業者**：浸水に伴う機能停止に向けた準備、復旧準備 など

➤ 情報途絶

→**的確な情報収集・情報発信を行うための多機関連携**

- **行政**：明確な役割分担、広報担当の配置、関係機関と連絡要員（リエゾン）を相互派遣
- **気象庁**：関係機関と連絡要員（リエゾン）を相互派遣
- **報道**：関係機関と連絡要員（リエゾン）を相互派遣、市町村広報担当と連携 など